中学・高校生～

2019年9月　no.72

よんでネット＊ 2019 秋号

発行□茅ヶ崎市立図書館／協力□茅ヶ崎図書館子どもの本の会

「シルクロードのあかい空」

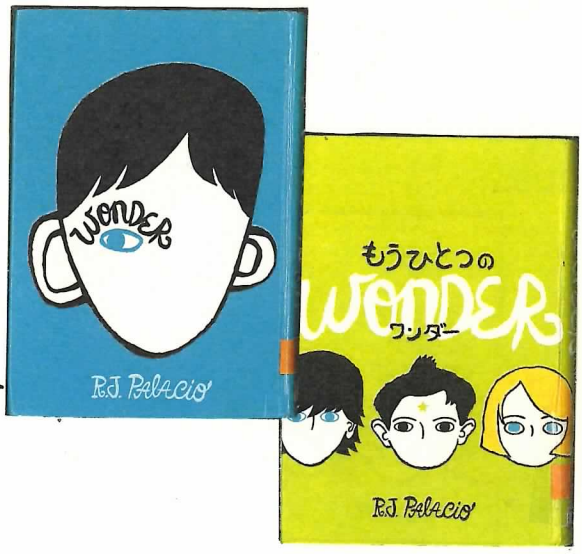
イザベル・シムレール 文・絵
石津ちひろ 訳

岩波書店
〔E〕

昔、中国に 肌から馨(かぐわ)しい香りを漂(ただよ)わせ、チョウを体の周りにとびかわす王妃がいた。その王妃にあこがれて、私はチョウ専門の昆虫学者になった。これから 西安から チョウの王妃の足跡を追ってシルクロードへ 旅する。赤と金色に輝く広大な景色の中で、珍しい生き物や伝統的な暮らしを守る人々に出会い、古代へと思いをはせる。

「ワンダー」
「もうひとつのワンダー」

R・J・パラシオ
中井はるの＝訳



「ワンダー」は、10歳の男の子オーガストの物語。生まれつき顔に異常があり、27回も手術をしたので、10歳で初めて学校に行く。その見た目から、傷つけられることも多いが、ありのままを受け入れてくれる友だちがだんだん増えてきた。

「もうひとつのワンダー」は、オーガストを取りまく3人の子の物語。いじめっ子のジュリアン。幼なじみのクリストファー。距離をおきながらも やさしいシャーロット。3つの物語は、犯してしまったあやまち、ときにはむずかしい友だちとの関係、親切について問いかけてくる。

ほるぷ出版
〔933パ〕

え？貝塚ってごみ捨て場じゃなかったんですか!?
「知られざる縄文ライフ」　響田亜紀子

一万五千年前に日本に住んでいた縄文人が、私達共通の先祖と思われる。飛躍的な科学の進歩によって人骨や住居跡の貝塚などから、食料調達、家族とのすごし方、恋の話など、以前よりくわしくわかってきた。本を読み進めていくうちに縄文時代が広がっていくようだ。いろいろ解ったが、まだ謎がいっぱいだ…。

誠文堂新光社［212］

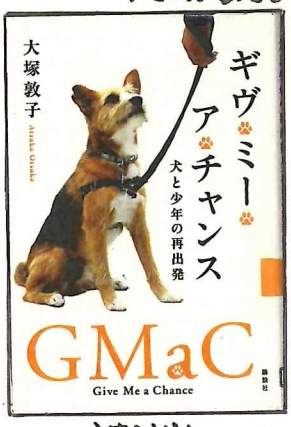
「笑う化石の謎」
ピッパ・グッドハート　千葉茂樹訳

あすなろ書房［933グ］

13歳のビルは、イギリスの静かな村に住んでいる。この村では、「コプロライト」という肥料になる化石が見つかり、活気づいていた。ビルは、失業した父を助けようと採掘場で働き始めた。そこでビルはワニが笑っているような化石を発見した。この"ワニくん"をめぐり、村では思いもよらないことが起こっていくのだが…。

「ギヴ・ミー・ア・チャンス　犬と少年の再出発」
大塚敦子

千葉県にある八街（やちまた）少年院では、非行を犯した少年たちが、保護犬を訓練するプログラム（GMaC（ジーマック））がスタートした。犬を訓練する過程には、人がよく生きるためのレッスンが数多く含まれている。負の感情を制御（せいぎょ）すること、相手に明確に伝わるようにコミュニケーションを取ることなど。その経験を通して、一度は社会からドロップアウトした少年たちが少しずつ変わっていく。



講談社
［32オ］